

# 地域高齢者の「食」を支える生活支援の再定義

IADL指標と主観的ニーズのギャップから紐解く、個別化ケアへのパラダイムシフト

## 調査の背景とアプローチ



N=14

対象数

66~94歳

年齢

認知症なし

認知症み

- 着眼点：生活の基盤であり、困り事の上位に挙がる「食に関する一連の行動（買い物・支度・後片付け・食事中）」。
- 目的：客観的なIADL（老研式活動能力指標）と、主観的な「困り事」「支援ニーズ」の相関を深掘りし、地域包括ケアシステム構築のための真のニーズを抽出する。

## 表面化しない「個別性」のスペクトラム



## 「能力が低い=困っている」ではない



## 地域包括ケアシステムの継続的構築に向けて

